８月に入りました。 先月２８日に ようやく梅雨明け宣言が 聞かれたのも 束の間、暦の上では一昨日に“立秋“を 迎えました。昨日からは“残暑”ということになりますが、見上げる空の色も陽射しも 盛夏そのもの、秋の気配など まだまだ 当分の間は 感じられそうにありません。そんな酷暑の中でも、汗びっしょりになって 元気いっぱいに遊んでいる子ども達の“勇姿“に パワーを与えられている毎日ですが、夏風邪も流行っていますので 体調管理には 一人ひとり 充分に配慮し過ごしていきたいと思っております。皆様も どうぞ くれぐれも ご自愛ください。

去る１日、２００９年より成田市の平和啓発事業として始められた『折鶴平和プロジェクト』に今年も 小泉市長より招待を受けまして、幼児クラスの子ども達と共に参加して参りました。当日の様子が 3日の 成田ケーブルテレビので オンエアされたとのことでしたので、ご覧になられた方もいらっしゃるかと思います。子ども達 皆で 小さな心を合わせて讃美した 「ひとりの小さな手」に皆さんが 笑顔と手拍子で 応援してくださり、心温まるひと時となりました。一生懸命で 愛らしい子ども達の歌声は、会場の参加者の方々それぞれの心に 平和への祈りと共に届いたことと思います。毎年こうして子ども達を通して讃美歌を献げる機会を与えられていることを心から感謝しています。このイベントは、ちょうど７年前 何気なく眺めていた 成田市の広報に掲載されていた小さな記事『平和を願い 市民の皆様の折鶴を被爆地の広島と長崎に届けましょう！』という文字が目に留まりその趣旨に賛同したことで 当時の子ども達や保護者の方々に呼びかけたのが始まりでした。そしてその年が ちょうど つのぶえ保育園にとって 設立５０周年にあたる 大きな節目を迎えた時だったことで その記念事業の一環として、世界の平和と愛を祈り願い続けていこうと、５０年間の歩みを機に、つのぶえ保育園の永久的な取り組みに出来ればと起ち上げました。そんな ささやかな想いを神様が 祝福してくださり 成田市へ届けてくださったのでしょう。保育園の皆で 一生懸命に折った鶴を（初めは本当に僅かな数でしたが）市役所の担当課に持って行った際に、今に繋がる出会いを与えられました。ヤマト運輸さんが 原爆投下の記念日までに 長崎と広島へ 無償で運んでくださるので、その無事を祈り 送り出すその出立式に つのぶえ保育園の子ども達に ぜひ参加してほしい、出来れば 平和にちなんだ歌を 歌ってほしい との オファーがあり、喜んで参加させて頂いてから今回で 8回目となりました。この間 毎年、回を重ねる毎に、このプロジェクトの内容も どんどん充実されていきました。成田市高齢者クラブの皆さんの ボランティアによって 収束作業が行われさらに３年前からは『折鶴平和使節団派遣事業』として 成田市内全中学校の代表者１１名の生徒が長崎で開催される平和祈念式典で 千羽鶴を献納する役割を担い その出発式として行われるようになりました。戦争を知らない１０代の子ども達が その悲惨さを知り、平和のバトンを引き継ぐため使命感に溢れた眼差しで まっすぐに前を見つめ 胸を張り 誇らしい表情で 並んでいる一同の姿はまさに 平和への 希望の光そのものに感じられ、とても頼もしく、毎年 感動的です。特に 今年の「平和とは 信じること、認め合うこと」という団長の 力強く純粋なメッセージには、胸を打たれ涙がこみ上げてきました。この国の歴史を胸に刻み、未来を想い、世界へと視野を広げ、同じ人間同士互いを信じ合い 認め合う、そこから平和の精神は生まれるという 優しさと 熱い志を 感じました。間もなく１５日に ７１回目の終戦記念日を迎える今年、リオでは オリンピック・パラリンピック開催に世界中が賑っていますが、日本では この直前、「社会に於ける弱者を抹殺すれば平和になる」などという 人として赦されざる狂ったエゴイズムによる極めて非道な事件に 国中が震撼しました。人が人を殺める権利は 誰にもありません。私たちは皆 互いに愛し合うため 神様から命を与えられ生きることを許されています。戦争は人間による人災ですが、平和もまた人間がつくり出すものです。互いに信じ合い わかり合おうと寄り添い、人は人のために生きること、これこそが平和の実現です。今を生きる者たちの 心の渇きと深い闇は、７１年前 命を失った人たちの 無念と悲しみから離れてしまった故なのかもしれません。今一度、すべての人の心に注がれている 神様の愛に 皆が気づき互いを大切に優しく生き合えるよう 静かに子ども達と祈りたいと思います。「私たち力のある者は力のない人たちの弱さを担うべきです。自分を喜ばせるためではありません。私たちはひとりひとり隣人を喜ばせ、その徳を高め、その人の益となるようにすべきです。（ローマ15：1-2）」（石田 記）